

## 令和7年度歴史講座① 5月24日講義メモ

講師：三浦 明彦氏 会場：熊西市民センター多目的ホール  
講座テーマ：徳川光圀（水戸黄門）

文責：中島 浩史

### 1. はじめに

江戸時代は時代劇やドラマでよく制作されお馴染み

- ・水戸黄門、長七郎天下御免、桃太郎侍、暴れん坊将軍、大岡越前、遠山の金さん  
鬼平犯科帳、銭形平次、子連れ狼 等々

⇒江戸時代は比較的平穏であり、合戦シーンが無いから膨大な費用が掛からない

- ・現代に比較的近いので共感できる

今年の歴史講座は時代劇でも人気の主人公3人を、史実と虚構の両面から解説

### 2. 徳川光圀（徳川中納言光圀）

#### (1)水戸家

光圀は、徳川家康の孫 ※資料最終頁の水戸徳川家略系図を参照

家康には認知している息子は11人(外に認知していない息子が5人)

特に家康が70歳を超えて生まれた3人を寵愛した

- ・義直(尾張家)・・・62万石で当主は大納言
- ・頼宣(紀伊家)・・・54万石で当主は大納言
- ・頼房(水戸家)・・・35万石で当主は中納言

徳川姓を名乗らせた：御三家

徳川宗家に跡継ぎがない時に

将軍世継ぎへ

※中納言を退く(隠居)と、「黄門」と呼ばれた ⇒水戸黄門の由来

水戸城は石垣がない土塁に建てられていた

現在は城跡に常磐線等が走っており、名古屋城や和歌山城のような天守閣等はない

水戸家は「定府大名(じょうふだいみょう)」・・・尾張家と紀伊家との格差解消も

⇒参勤交代の免除：大きな金を使わせなくてよい

⇒江戸に常駐・・・庶民から「副将軍」 ※実際にそういう役職はない

※3～4年に一度くらいしか水戸には帰れなかった

- ・光圀の実際の旅はせいぜい領内の範囲で、水戸と江戸の往復くらいだった

祖母英勝院の菩提寺訪問で鎌倉に一度出ているが、幕府へ詳細な計画書提出

⇒漫遊記では自由気ままな旅先で悪を懲らしめるが、それは作り話

頼房は正室を持たず、兄より先に嫡男を持つことを隠し、長男(頼重)を京都に里子へ  
その7年後に誕生した光圀は水子にされようとしたが家来の三木之次が養育へ

幼名(長丸) ⇒3代将軍の家光より家督相続を決めるよう迫られ、江戸に近い水戸に

居住していた光圀が兄の頼重に代わり家光と対面し世継ぎとして承認

※家光より、一字拝領(偏諱：へんぎ)

## (2)若気の至り・・光圈の反抗期

5歳で入城するも、頼房より帝王学として厳しく指導を受ける

- ・夜中に江戸の処刑場(小塚原・鈴ヶ森)に行って好みの生首を取ってこい
- ・隅田川で泳ぎ・・その当時は貧しい家で人が亡くなると川に遺体を流すために下流では遺体が多数浮いていた

水戸家江戸屋敷は広く、多数の家来・奉公人・商人が出入りし、光圈の顔を知っているものは上位職のみであった・・出入り人に変装し市中に抜け出し吉原等で遊ぶ  
⇒誰しもその振る舞いに眉をひそめた

そんな折に諭された(「史記」との出会い：伯夷伝⇒本来の世継ぎは兄であった)

## (3)「人倫」・・人としての道を重んじる光圈

頼房の長男：頼重が本来は家督を継ぐべきが人倫と考えた光圈は家光に頼重を重用するようお願い出て、讃岐高松城主へ ※栗林公園は頼重が造営

また、光圈は自分の長男(頼常)を世継ぎとせず、頼重の子を養子として家督を継がす

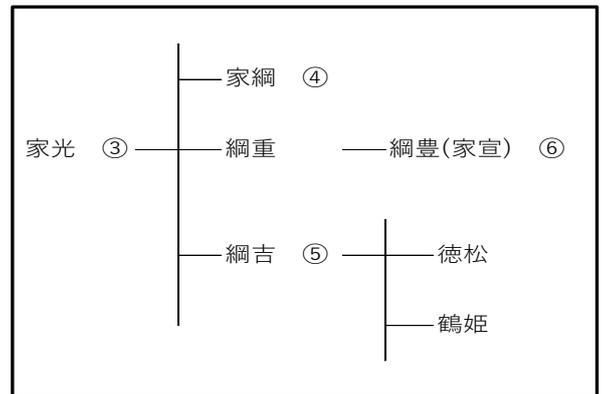
※光圈の後継者は綱條

- ・光圈 ——— 頼常・・讃岐高松城主へ
- ・頼重 ——— 綱方・・早世
- └—— 綱條(つなえだ)・・水戸家3代藩主へ

## (4)大義を通す光圈

### ①将軍家の世継ぎ問題

- ・家綱が没した跡、後継ぎがない  
弟の綱重は亡くなって、子は幼少  
次の弟の綱吉が将軍へ
- ・綱吉の世継ぎについて、光圈は自分と同様に家法通り綱豊を推挙
- ・綱吉は自分の子：徳松を西の丸へ  
徳松が早世し、鶴姫を西の丸へ、鶴姫の婚約者：紀州徳川綱教を次期将軍へ  
これに光圈は激怒する



### ②生類憐みの令

徳松の死後、男児を欲する綱吉が母の桂昌院と怪僧の隆光の勧めで発令する

⇒犬を大切にすれば子供を授かる ※犬に逆らうべからず

最初は犬の保護：東京ドーム3個分の敷地で野良犬を飼う

⇒庶民は稗や粟を食っているのに、野良犬は三食白米

それでも子宝を授からず、命あるものすべてを対象へ ※害獣もダメ

⇒顔にとまった蚊やボウフラを殺しただけで処分

光圈が30匹の野良犬の皮を「寒さ厳しい折柄」と献上し、綱吉が激怒

- ③家老：藤井紋太夫を手打ち ※西山荘に隠居後のこと  
柳沢吉保が幕府を牛耳っていた ※光圀は吉保のような佞臣は嫌い  
吉保と水戸家の間が円満となるように家老として動いていた藤井紋太夫  
将軍のご意見番を任ずる水戸家が吉保の意のままになるつつあることを憂い殺害

## (5)光圀の功績

- ①小石川後楽園の設計：水戸藩江戸上屋敷内につくられた築山泉水回遊式の日本庭園  
※岡山市の後楽園は元々は「お花島」と呼ばれていた →明治4年に後楽園と改名
- ②日本史が好き →天皇を外して日本史は語れないと、天皇の歴史を調べさせた  
→「大日本史」編纂：全国の史書を収集、また学者も集めた  
光圀以降、水戸家の代々で事業継承し、明治39年完成  
・渥美格之進(架空の人物)：安積覚兵衛(あさかかくべい)・・・歴史儒学者  
・佐々木助三郎(架空の人物)：佐々介三郎(さつさすけさぶろう)・・・歴史儒学者  
→後醍醐天皇のために奮迅活躍した楠木正成を祀った湊川神社に石碑を建立
- ③日本考古学発祥：日本で初めて学術的発掘調査を侍塚古墳で実施させた  
・佐々介三郎が調査 ※現在の栃木県大田原市湯津上地区
- ④日本で最初にラーメン(支那そば)を食す  
中国で政権交代・・・明⇒清 明国から亡命した僧侶を受け入れ学ぶ  
その際に、振舞われた支那そばのレシピを作成させ再現
- ⑤日本最古の家庭療法本「難民妙薬」  
江戸時代には庶民は薬を買ったり、医者に診てもらうことは仲々できなかった  
⇒どこに行っても、どういう薬草を取って、薬にするのかを平易なことばで記載  
※397種を調べ、130項を記載 →明治・大正まで続くロングセラーへ
- ⑥上水道の整備 (川から市井まで用水を引き水汲み場を作った)  
木の管を地面を掘って埋設して引き込んだ
- ⑦共同墓地・・・維持管理費が高い寺に墓を建てずに共同墓地へ  
水戸家は菩提寺でなく、共同墓地：水戸徳川家墓所に歴代藩主・夫人・一族を埋葬
- ⑧隠居後・・・領内を観て回り、貧民救済策を実行  
・貧しい農夫が母の面倒をよくみていたので、金10両を与えた  
・夫が病で俳人となるも他家へ嫁がず女手一つ田畑を耕していたので金10両

- ・貸し出し金利を年一割と金利の制限をした
- ・作物(米・稗等)を蓄えさせて飢饉に備えさせた
- ・領内のやもめ130人に稗を一日一升ずつ、孤児ら150人に6合ずつ支給
- ・ちゃんとしていない(神社内で賭博等)寺や神社は調査して排す・・・八幡あらため

## (6)その他

光圀は27歳の時に公家の近衛信尋の娘を正室とするも子を儲けなかった

⇒世継ぎを兄の頼重の子とするため

隠居してから10年間で領内の気に入っている女性宅で泊っている (5人くらい)

元禄13年(1700年)、73歳で大往生を遂げる

- 【見習うべき点】**
- ①自分の目で観る(事実を直視)
  - ②合理的にモノを考える